ISSN 1345-3505

AGULI

Aoyama Gakuin University Library Information

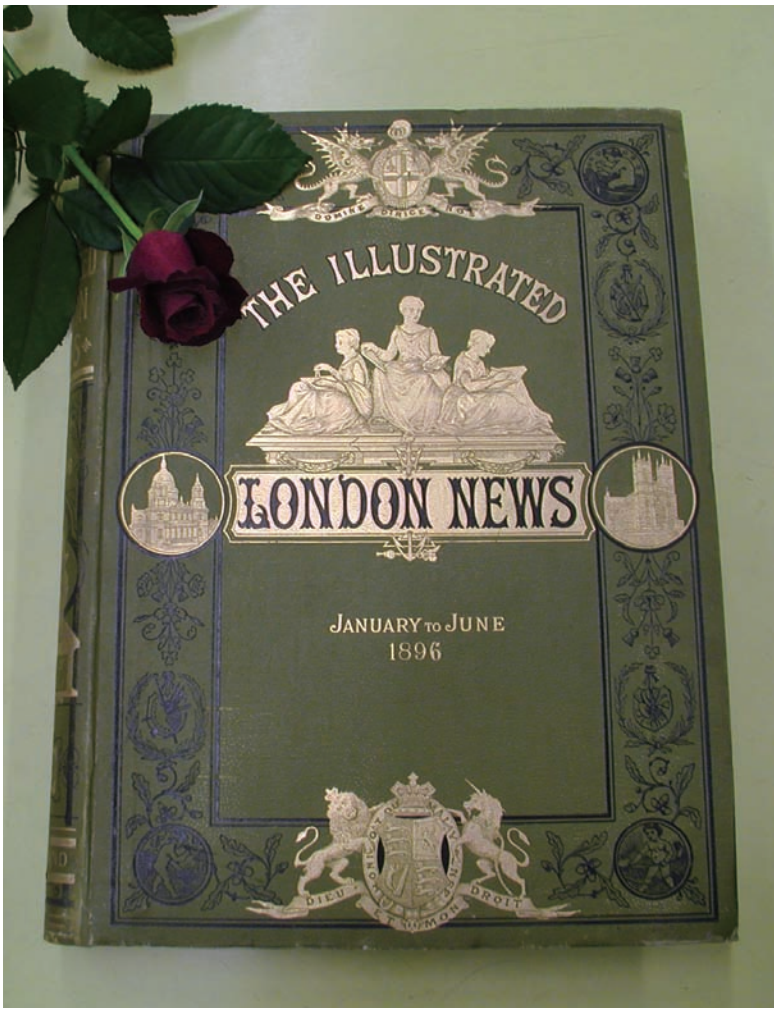
青山学院大学図書館報

特集 データベースを使おう！

No.76

http://www.agulin.aoyama.ac.jp/

Jan. 15, 2007



The Illustrated London News

目　次

巻頭エッセイ
書籍と思い出 … 土橋　正 2

特　集

「データベースを使おう！」

レファレンス協同データベースを紹介します！ 小田　光宏…… 4

経済情報データベースの紹介 本郷　茂…… 5

LexisNexis を法律文献検索につかう 江泉　芳信…… 6

デジタル×アカウンティング＝分析力の向上！矢澤　憲一… 7

LexisNexis at Lexis.com の意外な使い方 武田　興欣…… 8

データベースの活用法 長谷川美貴…… 9

デスクトップ・サーチの活用 宋　少秋… 10

大学で契約しているデータベースの紹介 大島 正嗣… 11

Web of Science から フルテキストへ …… 12

学生寄稿
入不二基義『ウィトゲンシュタイン「私」は消去できるか』 堂園幸司 …… 14

展示資料紹介
『The Illustrated London News』… 15

図書館広報板 …… 16

書籍と思い出

法学部長　土　橋　　正
DOBASHI Tadashi

大学院生だったころは、海外の書籍などは、現物を入手するかコピーするしかありませんでした。その当時は、コピー代もかなり高額だった印象がありますが（もっとも、貨幣価値がそもそも違いますから、絶対的な値段は変わらなかったかも知れません）、それしか方法がなかったのです。

そして、コピーを取るためには現物が必要ですので、現物がなければどうしようもありません。ですから、当時は、現物やコピーを持っていること自体に意味あるいは価値があったものです。他人が持っていない資料があることは、研究においては一歩先んじることができたのです。

1987年からカリフォルニア大学のバークレー校に１年間、本学から在外研究に行かせてもらった時も、そこの図書館はその意味ではまさに「宝庫」で、毎日コピーを取りまくりました。また、同校のアイゼンバーグ教授からは、これからはコーポレート・ガバナンスが重要なテーマになると示唆されましたが、その当時は、コーポレート・ガバナンス自体が日本ではあまり知られておらず、闇雲に関連する書籍や論文をコピーしたものです（帰国時には、段ボール箱で20個ほどを送ったと思います）。そして、帰国後は、これらを参考にコーポレート・ガバナンスの研究を多方面から行うことができました。このコピーは今研究室にありますが、見るたびに、当時の充実した生活を思い出します。

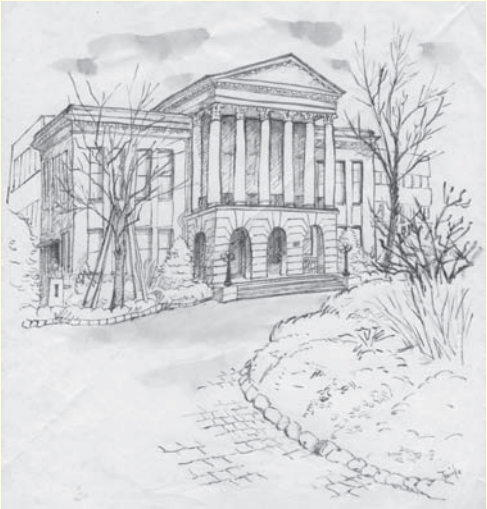
最近では、海外の論文などは様々なデータベースで容易にしかも安価で入手でき、その入手には手間ヒマをかける必要がありませんので、「持っている」こと自体には優劣はなくなっています。むしろこれからは、論文などをどのように読みこなすかが重要になります。ですから、研究をする上では、スタートラインは同じということになるでしょう。ITの普及は、少なくとも「研究」については平等性をもたらしましたので、この意味で「IT革命」とも言えるでしょう。

ところで、最近の若い人たちの多くは画面上で文献を読むようですが、私はそのようなことが苦手です。必ずプリントアウトして、必要な箇所には印を付けたりアンダーラインを引きながら読まないと、読んだ気がしません。IT化はペーパレスをもたらすようですが、少なくとも私にとっては、全くペーパレ

スではありません。

このことは、書籍についても同様です。図書館から本を借りて読む場合には、本に印を付けたりすることはできませんから、入手できない書籍は、図書館から借りてコピーをとったものです。ただ、本については、入手できるものは買ってきました。大学院生時代には、オイルショック後で急激に書籍代が上がりましたが(それまでは、専門書でもほとんどは千円以内で買えましたが、オイルショック後は2倍以上になりました)、それでも、書籍は買うのを原則としてきました。余談ですが、これは私だけではなく一般的傾向で、当時は初刷り(初版)で数千部、すぐに増刷というような学術書も多かったようです。今では、専門書はあまり売れない時代になっていますので、初刷り2千部で、増刷まで2～3年間かかるというのが一般的でしょう。

書籍を買うことに伴う最大の問題は、もちろん「お金」もですが、何よりも「場所」です。書籍を買っても置く場所を確保することが大変でした。大学院生の頃に、アパートの2階に住んでいたことがありましたが、本の重みで鉄製のドアが開きにくくなったこともありました。



大竹布美子(元職員)画

私の専門の商法や証券取引法は変化が大きく、特に最近では毎年のように法改正がなされます。商法の中にあった「第2編会社」は「会社法」としてまったく別の法律になりましたし、証券取引法は「金融商品取引法」という名称で大きく中身が変わりつつあります。今では、実際には、大学院時代に買った書籍はほとんど役に立ちません。しかし、書籍を捨てることには抵抗があります。私も数冊書籍を出版していますが、どんな書籍でも多くの人が多くの労力をかけて出版したということが分かるからです。また、書籍には、当時の思い出が凝縮されているからです。

書籍は、未だに私の研究室や自宅で、苦労して入手して読んでいた生活の「思い出」とともに寝ています。

(法学部教授　会社法・手形小切手法)

レファレンス協同データベースを紹介します！

小田光宏
ODA Mitsuhiro

右の図版を見て下さい。これは、本学図書館において実践されたレファレンスサービスの記録です。「婦人の婦の字が成立するにいたった起源を調べたい。漢字には象形文字、表意文字、表音文字などがあるが、「婦」はどういう経緯があってこの字になったのでしょうか?」という相談(図書館では、これをレファレンス質問と呼んでいます）に対して、どのように対応したかが示されているのです。

この記録は、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録されたデータの一つです。インターネット上に公開されており、ブラウザ上でhttp://crd.ndl.go.jp/とURLを入力すれば、閲覧できます。データベースは、レファレンス事例データベース、調べ方マニュアルデータベース、特別コレクションデータベース、参加館プロファイルデータベースの四つに細分されますが、ここに示したのは、レファレンス事例データベースからのものです。

レファレンス事例データベースの特徴は、「協同」「成果共有型ネットワーク」「ナレッジベース」となります。

第一に、全国の図書館の協同作業で成り立っています。この事業に参加している図書館は、それぞれで実施したレファレンス質問の処理記録をデータベースに登録し、相互利用を目指しています。

第二に、図書館がこれまで取り組んできたネットワークは、図書館が扱っている資源を共有し、活用することを目指したものでした。OPAC（所蔵資料のデータベース）の横断検索はこの典型であり、「資源共有型ネットワーク」と呼ばれています。しかし、レファレンス事例データベースは、資源ではなく、日々の図書館サービスの成果を共有し、活用しようとしています。それゆえ、私の造語ですが、「成果共有型ネットワーク」と名付けることができましょう。

レファレンス協同データベース事業
Collaborative Reference Database Project

管理番号	青山学院大学本館-2
質問	婦人の婦の字が成立するにいたった起源を調べたい。漢字には象形文字、表意文字、表音文字などがあるが、「婦」はどういう経緯があってこの字になったのでしょうか？ 辞書類を調べたところ「ほうきをもつ女」が「婦」というのがほとんどで、そこから、これは差別語ということで「女性」に変えようという動きがある。
回答	漢字辞典、事典類、出版者のＨＰの記事、国立女性教育会館（ＮＷＥＣ）のＨＰに、女性情報レファレンス事例集などより、「婦」が含むホウキは家事をするためのものではなく、祭壇を清めるための神聖な道具である。差別的な文字ではない。調べた資料類を質問者に渡した。
回答プロセス	まず、本学蔵の白川静「字統」を調べる。「婦」が含む帚の字は「箒」ではなく、壺酒（ちょうしゅ）という香草入りの聖酒をそそいで宗廟を清めるのに用いる祝具である。とある。 次に、大修館のＨＰに“漢字の読み方・意味に関するQ&A（その２）を見る。そこに 「婦」という漢字は、もともとは「ほうきを持つ女性」を表していると聞いたことがありますが、本当ですか？という問いがあるが、そこでは、たしかに一般に「婦」は「ほうきを持つ女性、掃除をする女性」を表す、とされているが、これは、中国で紀元１世紀ごろに作られた『説文解字（せつもんかいじ）』という字書に載せられている解釈で長い間支持されてきた。しかし、最近の研究では、「婦」はたしかに「ほうきを持つ女性」を表しているのですが、その「ほうき」が、私たちの知っている「ほうき」とはちょっと違い、紀元前の中国では、神殿の中を清めるために用いられる道具であって、単純な掃除道具というよりは、宗教的な儀式に用いられる重要な道具だったようだとある。 さらに、国立女性教育会館（NWEC）のＨＰに、女性情報レファレンス事例集があり、 そこに「婦人」から「女性」に言い換えられるようになった経緯を知りたいのですが。 という質問があり、その提供情報、回答があり、１１冊の図書、辞典類、雑誌記事３件があげられている。　本図書館（相模原、短大を含む）の所蔵を調べ参考にしてもらう。また、それらのリストにはないが、当館所蔵の『漢字の字源』　阿辻哲次著（講談社現代新書）のウェブ上での内容紹介（講談社ＢＯＯＫ倶楽部のＨＰ）にもホウキを持った貴婦人ということで「婦」の字源についての解説があった。これによると 婦という漢字がオンナとホウキからできているのは。女性を家事労働に縛り付けようと売る封建的な思想の現れにほかならず。このような作りガをしている漢字はこの男女平等の時代にまことに許しがたい文字であるという議論がなされたが、それは古代中国の実情と文化をふまえていない、いささか軽薄な議論というべきである。甲骨文字や殷周時代の青銅器の銘文においては、「婦」は当時の王の妃を指す文字として使われている。この場合のホウキは、戸外や一般家屋の掃除に使われるものではなく、実は神聖なお祭りをする祭壇を掃除するためのものだった。とある。
事前調査事項	
ＮＤＣ	言語　（8：9版）
参考資料	白川静「字統」、「古代汉语词典」、「漢字の字源」、「岩波女性学事典」
キーワード	
照会先	
答与者	
備考	

事例作成日	2006年03月20日	解決／未解決	解決		
調査種別	その他	内容種別	言葉	質問者区分	名誉教授
登録番号	1000029619	登録日時	2006年07月20日 16時15分	最終更新日時	2006年07月21日 17時11分
提供館	青山学院大学図書館　(3310048)				

第三に、蓄積されているデータは、単なる事実ではありません。図書館に寄せられたレファレンス質問とそれに対する回答だけではなく、「回答プロセス」が明示されているからです。「回答プロセス」には、どのような手順で、どのような判断で、どのような資料を用いて回答に至ったかが記されています。言い換えると、専門職としての図書館員の判断や意思決定の様相が記録されており、知識の集積（ナレッジベース）としての意義を有しています。

この新しいデータベースを、使いこなしてみて下さい。

（文学部教授　図書館情報学）

経済情報データベースの紹介

本　郷　　茂
HONGO Shigeru

以前から公開されていた経済学部経済情報データベースの使い勝手がさらによくなり、新たな経済情報データベース検索システムとして、青山学院に所属する学生・教職員を対象に一般公開されている。また、各データファイルは、毎年、最新データに更新され検索できるよう収録している。

経済情報データベースの利用は、図書館のホームページからできる。具体的には、図書館トップページの左サイドメニューの『データベース』より『データベース一覧◆テーマ別◆7.統計・データ』で、『日経NEEDS』を選べばよい。

図書館　http://www.agulin.aoyama.ac.jp/

直接なら　http://emc2.econ.aoyama.ac.jp/

この経済情報データベースは、ホームページ上でデータ検索し必要なデータをダウンロードできるようになっている。主なデータベースには、日経新聞社NEEDSのデータが収録されている。青山学院大学内からこのデータベースをアクセスするときは、特別な利用者認証をしていないが、自宅など学外からは、データベース利用上の契約により利用者確認が必要なためVPN接続により青山学院ネットワーク利用者認証を受けてから利用することになる。

マクロ経済データの総合経済データは、国民所得統計、生産・企業経営、金融・財政、貿易・国際収支、労働、物価、家計・消費、景気動向など国内の主要経済統計の時系列データを収録している。主に官庁発表データなどであるが、他にも各種業界団体の発表データも収録している。また、生産・出荷・在庫統計データは、経済産業省が発表する主要製品生産・

経済データベース一覧

出荷・在庫実績の全品目データを月次ベースで収録している。日経金融データは、各種市場金利、マネーサプライおよび経済部門間の資金の流れを見るためのマネーフロー表、各種金融機関の資産負債状況を見るための主要勘定、公社債取引の動向を見るための公社債市場関連統計などを収録している。法人企業統計季報データは、財務省が発表している法人企業統計季報を収録し、個別業種ごとの資本金規模別データも収録している。

地域総合経済データは、全国約3,400地域（全国、都道府県、市区町村別）の面積、人口・世帯、産業、金融・所得、地方財政、生活・文化、住宅・地価など広範多岐にわたる地域データを収録している。

財務データは、国内の一般事業会社・銀行・証券・保険の連結本決算データおよび単独本決算データを収録している。収録対象会社は、全国主要な上場会社全社、有価証券報告書提出会社の非上場会社である。

他にも、国内市場情報（PACAP）や企業基本情報などが検索・ダウンロードできる。

それぞれの経済情報データベースの利用説明、収録データ一覧、項目定義書などのほとんどのマニュアルがホームページ上から閲覧できるようにPDF形式のファイルとして提供されている。経済情報データベースの検索できる項目などは、このPDFファイルに内容が記載されているのでそれを閲覧していただきたい。

（経済学部教授 統計・情報）

LexisNexis を法律文献検索につかう

江 泉 芳 信
EIZUMI Yoshinobu

パソコンによって文献検索が格段に便利になった。特に、アメリカ法の場合には、図書館が契約しているLexisNexisが役立つ。私が修士論文を書いていた頃(30年ほど前)は、研究テーマについて書かれた文献、判例を探し出すのは大変だった。

仮に法律雑誌の出典が判明したとしても、身近な図書館で所蔵していないときには、アメリカの議会図書館(Library of Congress)に依頼してマイクロフィッシュで送ってもらわなければならなかった。

ところが、今、LexisNexisでモニタ画面で読むことができるし、保存もできる。

また、適切な検索語を使えば、膨大な数の文献が手に入る。例えば、アメリカ法は悪性の強い被告に「懲罰的賠償」を命じるが、その弊害が目立つことから、金額に制限を加えようという動きがある。そこで、「cap punitive damages」と検索語を入力してみると、瞬時に関連文献が表示される。

便利な反面、使いこなすにはいくつかのノウハウが必要となる。基本的な検索の方法は、LexisNexisの『詳細はこちら』(上掲画像参照)のリンク先のオンラインマニュアル等を参考にするとよいだろう。分からなくなったときには、図書館レファレンス係に相談すればよい。

探したいテーマについて適切な検索語を見つけることが少し面倒かも知れない。しかし、テーマが確定していれば、関連した単語は比較的簡単に見つかるだろう。また、「natural language」で検索する方法を選べば、

たやすく検索できるはずである。

表示された文献のタイトルから、果たしてテーマにどれだけ関係するのかを判断するのは、難しい。定評ある大学のローレビューであるか、著者が学生ではなく教員であるかなどがひとつの基準となろう。

読みたい文献を選んだところで、ダウンロードする。画面右上のダウンロード・ボタンをクリックすると、自分のパソコンに保存できる。

このときに、あとで利用しやすいようにテーマとか法律雑誌名をファイル名としてつけておくことが大切である。

保存した文献は、ワードで書体、文字の大きさ等を自分で選んで加工し、読みやすくしておく。

便利だからといって、あまりに多くの文献をパソコンにためてしまわないようにしたいものである。

(法学部教授　国際私法)

デジタル×アカウンティング＝分析力の向上！

矢　澤　憲　一
YAZAWA Kenichi

日本にはグローバルに活躍する大企業や小さいけれどキラリと光る技術をもった企業など多くの魅力的な企業が存在します。

では、そうした企業活動の「生き様」を浮かび上がらせるためにはどうすればよいでしょうか。それにはデジタル（情報技術）とアカウンティング（会計）のスキルを駆使し、立体的な角度から企業に光をあてることが欠かせません。大学図書館ではこれに資するため2つのオンラインデータベースが整備されています。

1つはイーオーエル社の「eolEPSer」、もう1つは日本経済新聞社の「日経テレコン21」です。eolEPSerは、有価証券報告書などの法定開示書類、株価などのマーケット情報を検索、閲覧、ダウンロードできるサービスです。特徴は網羅性と可変性。上場企業約3,900社、非上場企業約1,800社の財務情報、株価が掲載されており、PDF形式だけでなく他企業との比較が可能なテキスト形式で取り出せたり、株価や財務情報などによるスクリーニングができたりと用途に合わせた検索ができます。

日経テレコン21は日本経済新聞社が提供している検索サービスで、日本経済新聞本紙・産業・金融・流通4紙の記事全文検索や企業・人事情報が検索できます。特徴は、適時性と遡及性。リアルタイムなニュース速報をはじめ、過去30年分を蓄積した新聞記事データベース、100万社を超える企業情報、人事情報、マーケット情報など様々な情報にアクセスできます。

私が担当する講義では、経営活動と会計情報の関連性にスポットを当てています。例えば、「日産自動車―V字回復のナゾ」や「楽天―好業績のヒミツ」といったテーマに沿って、会計情報からいかに企業の実態を浮かび上がらせるかに迫ります。時には課題を出して学生にレポートを作成してもらいますが、そのときはeolEPSerや日経テレコン21を使うようアナウンスしています。

また私のゼミナールでは4人1組でチームを組み、自主的に課題に取り組んでいます。2006年後期は「M&A（企業の合併・買収）と企業価値」という統一テーマのもと各チームが独自の問題意識、視点から研究しています。

ある日のゼミ風景をご紹介しましょう。

ゼミ生「M&Aとはいったい何なのか、私たちはその本質に迫りたいと思っています。そのために理論的な考え方を探るとともに、M&Aによって何がどのように変化するのか実例に基づいて丹念に調べようと思っています。」

教　員「それはよいスタンスですね。そのためには会計情報、株価といった定量分析と記事検索などを活用した組織・戦略分析が必要です。図書館DBをフル活用してください。」

ゼミ生「なるほど、よくわかりました。これから調べてみます。」

教　員「よい研究を期待していま すよ。」

ゼミ生「がんばります!」

（経営学部専任講師 財務会計論・制度会計論・企業価値分析論）

LexisNexis at Lexis.com の意外な使い方

武　田　興　欣
TAKEDA Okiyoshi

アメリカの主要大学ならほぼどこでも使えるLexisNexis データベースが本学にも導入され、本館図書館では使い方の講習会が数次にわたって行われた。LexisNexisは「アメリカ法律情報」専門ツールと思っている人も多いだろうが、実は法律関係以外のデータベースも多く収められている。

私のような法律の専門家でない者にとって、一番使い出があるのが News section である。アメリカの代表的な新聞のうち、*New York Times* の過去の記事は、LexisNexis を使わなくとも、別の図書館データベースProquest から入手できる（皆さん、Proquest を使ったことがありますか？）。しかし *Washington Post*、*Los Angeles Times* や、他の大・中都市の新聞（*Atlanta Journal and Constitution* や *San Francisco Chronicle* など）のような、Proquestで入手できない新聞記事も、LexisNexis で取り出すことができる。

LexisNexis のNews & Business というタブの下には、他にも意外なデータベースが含まれている。Combined Sources（いくつかの新聞などのソースを同時に検索してくれる所）というリンクをクリックして奥に行くと、transcripts という項目が出てくる。transcripts とは、簡単に言うと、「テープ起こしした文章」である。ここにはABCやCNNなどテレビ番組の音声部分や、アメリカ連邦議会の公聴会のやり取りなどをテープ起こししたものが入っている。そこで、例えば図書館本館1階のマルチメディア室や、NHKのBS1でたまたま見たCNNのニュースを自分のレポートに引用したくなったら、transcriptsに行って検索して正確な内容を知ることができる（日付を絞らないと膨大なヒット数になるので注意）。自宅でこれらの番組を録画できる人は、聞き取れなかった部分をチェックできるので、英語のリスニングの勉強にもなる。

自分のお目当ての新聞やテレビ局などのソースが決まっている人は、Find a Source というタブの所に行って、そのソース名を検索画面に入力すれば、そのソース内に限って検索することができる。試しにCNNと入れると、「最近2週間のCNNのtranscripts」という絞られたソースも出てくる。また、特定のメディアの名前ではないが、ここに public opinion と入力すると、Public Opinion Location Library or Public Opinion Online という項目が出てくる。この中には、Gallup、Roper Center といった、アメリカの大手世論調査機関が過去に実施した世論調査の質問文と単純集計データ（どういう選択肢を何%の人が選んだか）が入っている。

LexisNexis の最大の難点は画面が全部英語であることだが、ふだん YouTube を使うくらいの勇気のある人は、是非チャレンジしてほしい。LexisNexisを使うには、図書館のレファレンスデスクに行って、IDとパスワードをもらうことが必要である。いったんこれらを入手すれば、普通のインターネット環境で <www.lexis.com> にアクセスして、自宅からも、世界中のどこからでも（海外旅行中も!）使うことができる。

（国際政治経済学部助教授 政治学）

データベースの活用法

長谷川美貴
HASEGAWA Miki

自然界は分子であふれ、特に分子間の相互作用は分子自身の機能を発揮するために重要なポイントとなる。例えば、私たちの血液中にあるヘモグロビンというたんぱく質は鉄を含む錯体分子のひとつであり、体内の各部位で酸素濃度をセンシングしながら酸素を授受する機能を持つ。分子は光とも相互作用する。肌表面にある銅錯体は光を捉えると細胞内のDNAを守るためにチロシンをメラニンに変化させ、遺伝子情報を紫外線から守る。これがシミ、ソバカスである。

私どもは、「錯体」、「光」、「相互作用」をキーワードに、研究を進めている。たとえば、強い赤色発光を示すユーロピウム錯体は、分子の対称性が発光効率と深く関わる。すなわち、発光などのスペクトル解釈から、X線や放射光を用いなくても、分子の構造がわかることになる。しかし、そのようなデータベースはみあたらない。

今年、4年生のテーマに、データベース作成を目的としたプログラミングとそれにより得られたデータベースからの情報解析を掲げた。それには、(1) 単結晶構造解析などから得られた分子構造の明瞭な試料と (2) それらの電子スペクトルが大量に必要になる。(1) は錯体分子の合成と単離そして構造解析という過程を経て得られるものであり、数年かかるのも珍しくない。(2) については、非常に繊細な条件でのスペクトル測定を必要としている。これらを考えると4年生の卒研として1年間で終えるのは無理ではないかと思われることだろう。そこで、今年度の４年生には、プログラムする傍ら、ケンブリッジ結晶構造データベースCCDCのデータベースCSDを駆使して、関連するユーロピウム錯体の構造検索を始めてもらった。全世界で構造解析を行った結果は無償でCCDCに提供され、CCDCがデータベース化したものがCSDであり、325,000以上の有機分子および金属錯体の構造が閲覧できる。投稿論文において結晶構造解析を行った場合には、CSDの何番目にその解析結果がデポジットされているか、ということを明記しなくてはいけない。そしてCSDにアクセスし、目的とする化合物のデータベースを閲覧すると、この化合物が最初に掲載された学術雑誌名、著者などの詳細が構造とともにわかる。私どもの分野では大変スタンダードなデータベース機構のひとつである。CCDCは私どもの扱っている比較的低分子量のものだけでなく、たんぱく質の構造解析もデータベース化している。他の機関でも無機化合物や、X線光電子スペクトルについてもデータベースがある。

大気中でみるみる風化していくような性質の結晶などは、そのような化合物の扱いに徹した研究者により構造解析され、公開された構造が他の研究とリンクし、その化合物に関連した研究が大きく進展する。構造解析されたデータのデポジットは無償であるにも関わらず、閲覧が有償であるのは、データベースそのもの価値と、データデポジットの際の信頼性や利用する側のエチケットを含めた管理であると思われる。新規機能性分子設計へのアプローチを含め、これらのデータベースは効率よく研究を進めるために欠かせないところに位置している。今年度から始めたテーマも意義あるものになると確信しており、楽しみにしている。

（理工学部専任講師　無機錯体化学）

デスクトップ・サーチの活用

宋　　少　秋
SUNG Shao-Chin

デスクトップ・サーチとは、パソコンに保存されているファイル内のテキスト情報を自動的にデータベース化して、そのデータベースを利用してファイルのキーワード検索を実現した機能です。検索結果は瞬時に表示されるのでとても便利です。

おそらく、最初に開発されたデスクトップ・サーチは二年ほど前にGoogleによるもの（英語版）です。現在、Google以外に、MicrosoftとYahooもそれぞれが開発したデスクトップ・サーチがフリーでダウンロードできます。日本語版を提供しているのはGoogleとMicrosoftです。その他、製品として発売されているものもあります。データベース化されるのはテキストファイルだけでなく、Word、Excel、PowerPoint、PDFなどもデータベース化されます。また、主要なメールソフトとウェブブラウザを使用していれば、メールとウェブ履歴もデータベース化されます。

紙文書を検索可能にする

ここで、特に紹介したいのは紙文書を電子化して、デスクトップ・サーチでも検索可能にする方法です。紙文書を電子化するとき、スキャナーで何らかのファイル形式にします。一般にはPDFファイルにします。これで電子化はできるが、ファイルには画像情報しかありません。つまり、その内容を見るには、ファイルを開いて表示された画像を目で見る必要があります。そこで、元の紙文書が印刷物であれば、文字認識（OCR）ソフトを使ってスキャンしてできたPDFファイルの文書中の文字情報を追加して検索可能な画像に変換できます。私はAdobeのAcrobatを使っていますが、PDFファイルの作成・編集機能をもつソフトウェアや最近のスキャナーの付属ソフトにも文字認識機能があるようです。さすがに記号や数式は認識されません。このような検索可能な画像はもちろんPDFのビューアで内容を検索できますが、デスクトップ・サーチにも認識され検索結果に表示されます。この機能がとても便利です。

研究で多くの文献を集めますが、最近は基本的に電子化されているもの（主にPDFファイル）を集めています。文献複写サービスの利用などでどうしても紙になってしまう場合は上で説明したように電子化しています。その他、学生時代から集めてきた文献の電子化を少しずつ進めています。

（理工学部助教授　経営・システム工学）

各社のデスクトップサーチ ダウンロード画面
（上から）Google, Microsoft, YAHOO!

大学で契約しているデータベースの紹介

大　島　正　嗣
OSHIMA Masatsugu

情報の検索と入手は昨今、非常に容易になっています。気になった記事・文献があれば、図書館や学会のデータベースから入手することができます。

例えば、図書館から利用できる日経BP記事検索サービスは私が普段から良く使っているデータベースです。案内によると、「日経BP社のビジネス専門雑誌約40誌」が検索できるそうですが、流行の技術について調べるときに重宝します。

もう一つ、日経テレコン21では日経の新聞関連の検索ができるので、ある技術がどのような現象を起こしているのか（例えばmixiなどのSNSのインパクトについて、など）をまとめるのに役立ちます。PDF形式で、記事のイメージをそのまま入手することができるので、スクラップブックのように使うことができます。

しかし考えてみると、自分が何を探しているのかが判然としていない場合も往々にしてあります。Google等で 検索を繰り返すうち、「ああ、私が探していたのは××と呼ばれている物なんだ」と思った経験は誰しもあるのではないでしょうか。

Webデザインで良く使われる「情報アーキテクチャ」という考え方では、情報の探索を、既知情報探索（ISBNを知っているなど）、探求探索（何を探しているかが明らかでない場合）に分けています。

探求探索には国立情報学研究所のWebcat-Plusが使えます（一般公開されているデータベースですが、図書館からもリンクされているので紹介します）。詳しい説明はWebcat-Plusのページに譲りますが、自分が漠然と知りたい言葉で検索すると、関連すると思われるキーワードがリストアップされます。それらを取捨選択するうちに探していた情報・書籍にたどり着くことができます。余談ですが、同じ技術を利用したものに「新書マップ」（http://shinshomap.info）があります。

話は多少ずれますが、私が育った街の駅前には、宮沢賢治の童話の名前がついた本屋さんがありました。小さなお店でしたが本当に選りすぐりの品揃えで、そこで何を探すでもなく立ち読みするのが私の無上の楽しみでした。情報の探求探索などというと物々しいですが、立ち読みと同じです。是非、図書館の契約している色々なデータベースを立ち読みしてみてください。

（国際マネジメント研究科助教授　情報学）

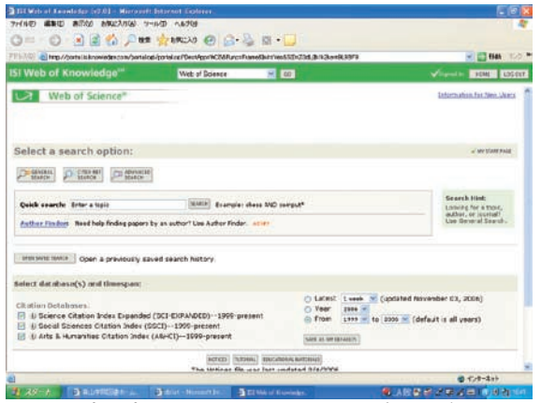
Web of Scienceからフルテキストへ
― LinkSourceを使って ―

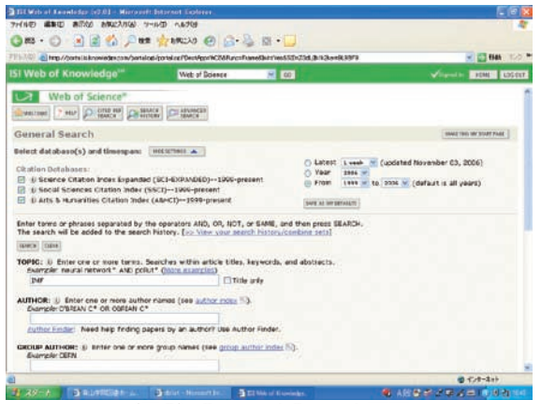
LinkSourceとは?

LinkSourceはデータベースではありません。二次資料(抄録・索引)データベースの検索結果から全文(フルテキスト)データベースや電子ジャーナルへリンクするツールです。このような機能を持つツールを一般的にリンクリゾルバと呼んでいます。青山学院大学図書館では、EBSCO社のリンクリゾルバLinkSourceを2006年4月に導入しました。大学図書館では数多くのデータベースや電子ジャーナルを導入しており、今まではそれぞれを使い分けて何度も検索する必要がありましたが、LinkSourceを導入することによりフルテキストを持たないデータベースの検索結果から、すぐにフルテキストへリンクできるようになりました。これは大きな検索機能の向上であり、今や文献を入手するためには欠くことのできないツールとなっています。リンクのベースはEBSCO社のA-to-Z(電子ジャーナルタイトル一覧)で、10月末現在、約9,500タイトルの洋雑誌が搭載されています。LinkSourceによってWeb of Scienceからフルテキストへ到達する流れを事例を用いて説明します。

データベース、Web of Science からのリンクを見てみましょう。大学図書館ホームページ(URL:http://www.agulin.aoyama.ac.jp/)の左側メニュー「データベース」をクリックします。次にアルファベット順のWをクリックすると先頭にWeb of Scienceが表示されます。Web of ScienceはThomson Scientificが提供する引用文献索引データベースで、フルテキストデータベースではありません。自然科学、社会科学、人文科学の3分野をカバーしています。データベース名、あるいはロゴをクリックするとWeb of Scienceのトップページになります。(図1) 左上の Select a search option には、GENERAL SEARCH, CITED REF SEARCH, ADVANCED SEARCH の3種類ありますが、通常、GENERAL SEARCHを選びます。GENERAL SEARCHの検索画面のTOPICの入力フィールドには、論題、抄録にあるキーワードを入力します。"IMF"と入力してSEARCHをクリックします。(図2) 最新の論文から初めの1〜10件が表示されます。(図3) 検索結果の2,745件を引用回数の多い順にソートしてみましょう。右側のSort by:Latest dateをTimes Citedに変えてSORTをクリックします。261回引用されている先頭の論文はAbstract(抄録)は見られますが、フルテキストは見られません。(図4)

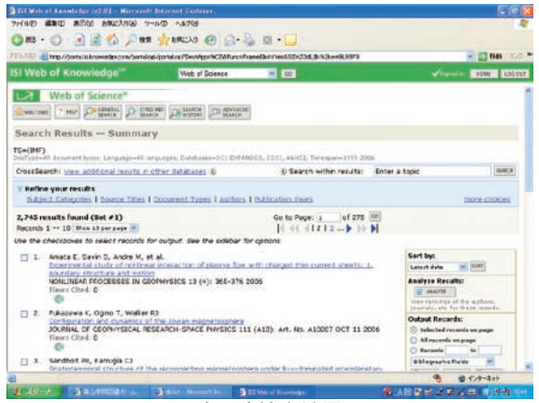
論文の下に表示されているLSという小さな丸いロゴにカーソルを合わせると、Check

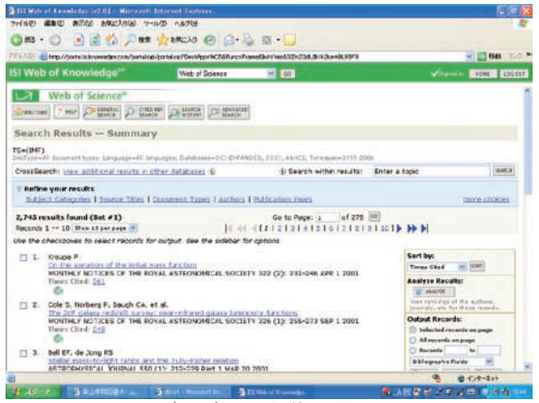

(図1) Web of Scienceトップページ

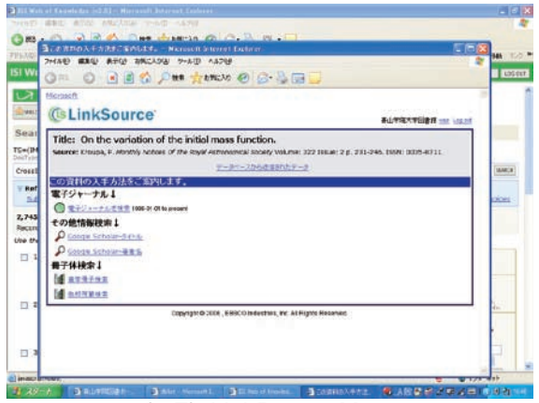

(図2) General Search画面

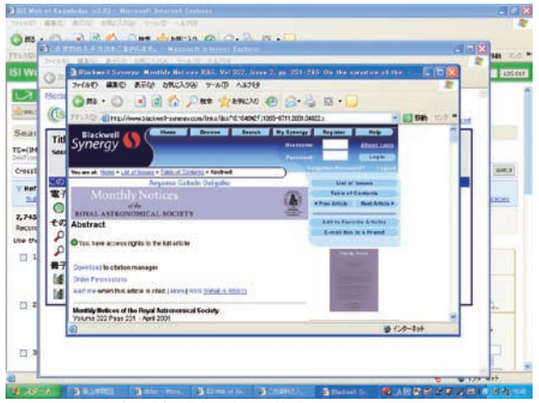
LinkSource for more Informationというポップアップが出てきます。このロゴをクリックします。次にジャンプする画面はLinksource Menuと呼ばれていて、枠内には文献情報が

※画面は11月現在


(図3)検索結果


(図4)ソート後の画面


(図5) LinkSource Menu


(図6) Blackwell Synergy画面

表示されています。(図5)「この資料の入手方法をご案内します。」の下の「電子ジャーナル↓電子ジャーナルを検索」をクリックするとBlackwell SynergyのAbstractの画面にナビゲートされ(図6)、画面下のPDFをクリックすると16ページに渡る全文が見られます。

現在、リンクが可能なデータベースは、"Web of Science""Bibliography of the History of Art""EconLit""ERIC""Linguistics and Language Behavior Abstracts""Library and Information Science Abstracts""Social Services Abstracts""Sociological Abstracts""Business Periodicals Index""Library Literature & Information Science""Biography Index""Readers' Guide Abstracts""PsycINFO""Choice""The Philosopher's Index""MLA International Bibliography""JDream II"の17種と、パッケージ型データベースEBSCOhost, ProQuestの2種です。大学図書館では図書、雑誌、マイクロ資料などを収集して提供する役目に加えて、最近はデータベースや電子ジャーナルの充実に力を入れています。さらに、利用者がこのような電子コンテンツをいかに効率的に、そして的確に使って目的の文献にたどりつくか、その道筋の整備も行っています。今後はフルテキストへのリンクが可能なデータベースの数を増やし、利用環境をもっと便利にすることが目標です。次に求められるのは、収集した文献情報を個々の利用者が管理できるサービスでしょう。図書館は進化し続けます。

参考文献

片岡真:リンクリゾルバが変える学術ポータル「情報の科学と技術」56(1)2006 p32-37

早稲田大学図書館ホームページ(http://www.wul.waseda.ac.jp/db/articlelinker/index.html)

九州大学附属図書館ホームページ(http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/e-resources/LinQ.html)

(本館運用課参考係 小林陽子)

入不二基義『ウィトゲンシュタイン「私」は消去できるか』

堂　園　幸　司
DOUZONO Koji

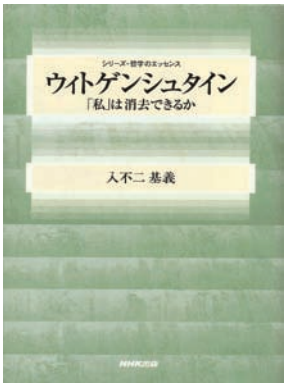
幼い頃、私は自分が単に「ある」ということに驚いた経験がある。私はこう思った。「何で自分がわざわざ存在しているのか？なぜこの人間がたまたま自分なのか？ところで、自分は「たった一つ」というあり方をしているが、それはいったい何なのか？」。年を取り、大人になるに従って、次のようにも考えた。「『私』というそのあり方、その存在は、あまりにも特別であり、強靱であり、他の存在一般に対し排他的ですらあるが、いったいその『私』とはどういう事態なのか？……」。

何も、自分が不幸で苦悩しているからという理由で、こういう疑問を持ったのではない。極めて当たり前のこと――つまり、「私」というものがただ一つだけあるということが、強烈に不思議に思えたから、上のような疑問を感じ、それを今日に至るまで抱き続けたのである。

しかし、周囲を見ても誰も「私」について語らない。テレビ、新聞、雑誌、インターネットでも同様で話題にすらならない。私は「周りの人間はおかしいのか、それとも自分の方こそが病気なのか」とよく真剣に悩んだものだった。

しかし、私は病気ではなかった。大学に入り、哲学というものに触れるにつれ、「私」の問題が哲学で議論されていることを知ったのである。そして、その問題を深く探った哲学者がウィトゲンシュタインだった。彼は「その生涯を通じて独特のやり方で『私』の消去を試みた」のだった。

今回紹介する本は、そのウィトゲンシュタインについて書かれたものである。数多くあるウィトゲンシュタイン本の中でも、本書は彼の「『私』をめぐる思考」についてのみ述べている。したがって、異彩を放っている。上述したような「私」の問題に関心がある者にとっては、この上ない喜びをもたらす本とも言えよう。しかしながら、「私」の問題というものは、そもそもいったい何が問題になっているのかすら、一般にはなかなか理解されにくいのが常である。私はそういった人たちにも、この問いの醍醐味に触れてもらいたいと思った。それゆえ、本書が話題とするところのスタート地点たる素朴な疑問を、長い前置きとして提出したのである。



さて、本書は簡単にわけると五つになる。まず、序章では、ウィトゲンシュタインの思考から「遠く離れたところから『補助線』を引く」べく、『維摩経（ゆいまぎょう）』の第八章（入不二法門品）の「お話」から始まる。ちなみに著者の姓は、この箇所に由来している。

序章でリラックスしたところで、次の第一章から本格的に「ウィトゲンシュタインの思考の追跡」が始まる。ここでは主に、彼の唯一の生前の哲学書である『論理哲学論考』を扱う。難解である『論考』を、著者は精確な読みを通して解説し、そこで扱われる問題をごく自然に立ち上がらせる。続く、第二章、第三章では『青色本』、『哲学探究』を解きほぐし、ウィトゲンシュタインとその後の英米哲学に接する上で重要な概念である「言語ゲーム」や「私的言語」等に踏み込む。最後には、ウィトゲンシュタイン小伝と読書案内が付いているので、彼の哲学や「私」の問題に興味を持った人は、そこから適切な本を選べる仕組みになっている。

「私」の問題と哲学は、それぞれが「私」であろう人々、考える葦（あし）たる人間に開かれている。本書をきっかけとして、「私」の名状しがたい不思議さに接近し、哲学に足を踏み入れることを薦（すす）めたい。　（文学部第二部英米文学科　四年）

展示資料紹介

19世紀イギリスにおける世界最初の挿絵入り新聞

The Illustrated London News
イラストレイテッド・ロンドン・ニュース

創始者 ハーバート・イングラム（Ingram Herbert 1811-1860）

創刊号：バッキンガム宮殿で開かれたヴィクトリア女王御結婚2周年記念舞踏会

大衆文化の花開いた19世紀のイギリスでは、活字文化が興隆を極め、書物、新聞、雑誌等の定期刊行物が数多く出版された。こうした大衆紙興隆の中で、当時ロンドンで印刷業兼新聞雑誌販売店を営んでいたハーバート・イングラム（“*The Illustrated London News*”の創始者）は、当時の大衆の趣向を予見し、新たな視点で挿絵入りの新聞を考案、新聞記事の内容はイギリス国内のニュース（政治、戦争、美術、音楽等）はもとより、世界各国の出来事を挿絵入りで掲載、従来の活字情報中心の報道から、先例のない記事にまつわる挿絵を取り入れるという画期的な方法で当時の大衆の心を掴んだ。新聞の核心部分である挿絵の複製は、迅速でかつコストの低い木口木版(*)を取り入れ、こうして1842年（天保13年）5月14日、記念すべき第一版、世界最初の挿絵入り新聞、“*The Illustrated London News*”の創刊号が発行された。創刊号の編成は紙面が16ページ、その他32枚の挿絵を収め、見出しである新聞の一面にはハンブルグ大火災“*The View of the Conflagration of the City of Hamburgh*”とそれを見守る群衆の現場スケッチが掲載されており、また、32枚の挿絵の中にはバッキンガム宮殿で開かれたヴィクトリア女王御結婚2周年記念舞踏会のスケッチも含まれている。創刊号の発行部数は約2万6千部、その後も順調に部数を伸ばし、1850年代に10万部、1860年代には30万部まで伸び続けた。

こうした中で日本関係の最初の掲載記事は、1853年（嘉永6年）10月22日号にアメリカ合衆国の日本遠征、ペリー来航という見出しで当時の江戸湾（今の東京湾）の上陸の状況を紹介している。その後も日本の歴史的転換期（幕末～明治）にまつわる出来事、すなわち上述のペリー来航から日英同盟（1902年・明治35年）に至るまで長年に亘り挿絵と関連記事が同紙に掲載された。

このように期待どおりの成果の中で、ハーバート・イングラムは、創刊号発行以降も天職の経営手腕を発揮し精力的に活動を続けた。しかし彼の事業も全てが順風満帆とは言い切れなかった。転機を向えたのは1860年（万延元年）、“*The Illustrated London News*”の新たな題材を求めアメリカへ渡り、その帰国途上、船舶の事故に遭遇し、49歳という若さで人生の幕を閉じてしまう。没後、彼の残した功績と社会に与えた影響は大変大きく、挿絵入り新聞の創始者として、その名は後世まで言い伝えられた。

挿絵入り新聞の創始者ハーバート・イングラムと共に注視したい人物がチャールズ・ワーグマン（Wirgman、Charles 1832-1891）である。彼は“*The Illustrated London News*”の特派員兼専属画家であった。1861年（文久元年）来日、横浜の外国人居留区に駐在し、激動の幕末及び明治初期の日本各地を積極的に取材、スケッチと文章で記事を作成しイギリス本国へ配信した。その詳報のスケッチの数々は貴重な記録として評価されている。また、一方では外国人居留地向けの風刺漫画「ジャパン・パンチ」を創刊、横浜外国人居留地の生活や外国人の目から見た当時の風俗や習慣を独自の手法で描き紹介したことでも知られている。

(*)木口木版
木を輪切りにした固い木口（こぐち）にビュランという銅版画の工具を使って彫る技法

▼所蔵状況（本館）
57号（1870）～125号（1904）
欠号78号（1881）、95号（1889）、120号（1902）
復刻版 1号～139号

▼（参考資料）
金井圓 編訳 『描かれた幕末明治：イラストレイテッド・ロンドン・ニュース：日本通信：1853-1902』および別冊 雄松堂書店 1973 291/E4

（本館運用課庶務係担当）

図書館広報板

本　館

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

通常開館　月～金 9:00 ～ 21:40　土 9:00 ～ 21:00

休業中の開館　月～金 9:00 ～ 19:00

休日開館　12:00 ～ 19:00

休館日

※1/20(土)、1/21(日)はセンター試験のため休館
※2/26(月)は第二部入学試験のため休館
※4/4(水)から通常開館

● 試験期貸出・・・・・・1/9～1/26
冊　数：通常通り
貸出期間：1週間(学部生・短大生)
延長期間：1週間(全利用者)
※山手線コンソーシアム利用者と卒業生は貸出停止です。

● 春期特別貸出・・・・・・1/27～3/28
冊　数：10冊
返却日：在校生　4/11
卒業生・修了予定者　2/28

万代記念図書館

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

通常開館　月～金 9:00 ～ 20:00　土 9:00 ～ 17:00

休業中の開館　月～金 9:00 ～ 17:00　土 9:00 ～ 13:00

休日開館　10:00 ～ 17:00

休館日

※4/11(水)から通常開館

● 試験期貸出・・・・・・1/9～1/26
冊　数：通常通り
貸出期間：1週間(学部生・短大生)
延長期間：1週間(全利用者)
※卒業生は貸出停止です。

● 春期特別貸出・・・・・・1/27～3/28
冊　数：10冊
返却日：在校生　4/11
卒業生・修了予定者　2/28

《延長について》　2館共、ホームページから利用状況照会をご利用ください(モバイルは除く)。

編集後記

データベースは、それぞれの分野に関する信頼の置ける情報を、整理・体系化した形で私たちに提供してくれます。今号の特集をきっかけにして、一人でも多くの人に大学図書館が提供するデータベースの豊かさに触れていただければと願っています。　(館報編集委員長　藤井賢治)

青山学院スクール・モットー　地の塩、世の光　The Salt of the Earth、The Light of the World

青山学院大学図書館報“AGULI”第76号 2007年1月15日発行
編 集　青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当　TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472
発 行　青山学院大学図書館 〒150-8366　東京都渋谷区渋谷4-4-25　http://www.agulin.aoyama.ac.jp/